

**製品名: SNAI1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab03386**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 29 kDa; Observed MW: 29 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SNAI1
別名	SNAH; Zinc finger protein SNAI1; Protein snail homolog 1; Protein sna
遺伝子 ID	6615
SwissProt ID	O95863
免疫原	抗血清はヒト SNAI1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 215-264

**背景**

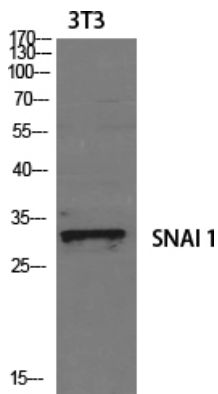
Snail は、E-カドヘリンの転写を抑制できるジンクフィンガー転写因子です。E-カドヘリンのダウンレギュレーションは、胚発生中の上皮間葉転換と関連しており、このプロセスは浸潤性癌細胞によっても利用されています。実際、E-カドヘリン発現の喪失は一部の

腫瘍の浸潤特性と相関しており、上皮性腫瘍細胞株における Snail と E-カドヘリンの mRNA レベルの間にはかなりの逆相関が見られます。さらに、Snail は細胞周期を阻害し、細胞死に対する抵抗力を付与します。GSK-3 と PAK1 による Snail のリン酸化は、その安定性、細胞局在および機能を調節します。組織特異性: さまざまな組織で発現し、腎臓で最も高く発現しています。

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



SNAI1 抗体を使用した 3T3 溶解物中の SNAI1 のウエスタン ブロット分析。